



## 風薫る《村山古道》を歩く Part1-2

＊ 100年の眠りから覚めた道”富士曼荼羅”の世界に想いを馳せて ＊

(前号よりつづく) 深々と緑の空気を吸って、広場右奥から日沢(にっさわ)を渡り北東へ。右に宿泊棟をみながら、多分、鹿の餌食になった穂先の無いスズタケの原に歩を進めます。

ジグザグしてオリエンテーリングの道を左折、一際目立つミスナラ古木に会ったら元に戻り進むと馬頭観音がお出迎えます。“大淵林道”に出てまた日沢を渡ると『中宮八幡堂』があり立て札に{“中宮馬返し”の馬立小屋、ここから上は女人禁制で“女人堂”があった。}と書かれていました。浅間大社に伝わる『富士曼荼羅図』(国の重要文化財)の世界を地で行く様な感覚に囚われて、不思議な緊張を味わいました。

踏み跡を辿ってまたまた日沢を渡って“井戸の跡”“水神祠”“八大竜王”の痕跡を見て“中宮八幡堂”跡に戻り、草むらに標識を確認したらまたまた日沢を渡ります。

日沢に沿う急傾斜面は倒木などで足場が悪いけれど信仰の山への人々の思いを彷彿とさせる遺跡の数々に出会えます。芽吹きもまばゆい広葉樹林に苔の存在は珍重なのだそうで足を下ろすのが憚られて思わず及び腰になります。標高1345 mの



富士山スカイラインに到着です。車なら下から一ツ走りの勝手知ったる“西白塚ふれあいの森”や“表富士グリーンキャンプ場”は左手下方面。ここまでの所要約5時間。(オババの足で一気はキツイ!平成21年5月29日歩く)

スカイラインを突っ切り、踏みわけ道を辿って行きます。道標は無いけれど赤い布に導かれて苔の庭を1時間あまり登ると、またスカイラインに出ます。また、突っ切って踏み跡を頼りにスズタケの中を北上するとガラン沢高鉢遊歩道のT字路。左へ行けば高鉢駐車場ですが、右折してすぐ左手を北登します。カニコウモリなどが群生する草地を過ぎると縦の林『矢立 大縦』、石組みの平坦な場所に着きます。左下に日沢を見ながらコメツガなどの針葉樹林を抜け、倒木の道に入った先が急に開けて陽射しが眩しい『滝本・笹垢離』“お不動さん”と3体の“お地藏さん”が祀られていました。内、2体の“お地藏さん”は無残にも首が無く、廃仏毀釈の犠牲になられたようです。

本格的な倒木帯に入ります。夥しい数の倒木は平成8年の台風17号の爪痕だったと後で知りました。『横渡』に到着。一旦日沢に下りてから右岸に渡り、急な斜面をジグザグと登ります。お堂の跡らしきもの、石室らしきものなどの遺跡を見て石段を登ると、また、倒木帯。風害もさることながら、度重なる雪崩の仕業もあるらしく折り重なった大きな倒木を跨いだり、くぐったり、乗り越したり・・・、短足の私には閉口する難所で、思いがけぬロスタイムをしました。が、ご褒美が待っていました。足裏に心地よい落葉の道、ダケカンバやナナカマドの明るい林の道を森林浴。『宝永遊歩道』とクロスしてさらに登れば、カラマツや低木のハイマツ越しに新六合目の『宝永山荘』が見えました。その上の斜面には残雪も・・・、コケモモの白い花に目を奪われ、スコリヤの道に足を奪われながら新六合目登山道と合体。(オババ足では所要たっぷり5時間でした。平成21年6月9日歩く) K・H

# 第15回 日本ジャンボリー

～世界に向かってでっかく羽ばたけ!～

会期 平成22年8月2日(月)～8日(日)  
会場 富士宮市朝霧高原



(財)ボーイスカウト日本連盟  
TEL 0422-31-5168  
<http://www.15nj.org/>  
富士宮市ジャンボリー準備室  
TEL 0544-22-1114



第22代  
**ミス富士山 決まる!**

外山舞香さん  
望月理早さん  
グランプリ

「富士宮」「富士山」のPRのために  
様々な活躍を期待します!

## 8月21日は『県民の日』



静岡県が誕生して今年で134年。  
7月から9月にかけて、県内各地で多  
彩なイベントを開催。

☆富士宮市では、観光ガイドボランティアが案内役  
を務め、『おもてなしイベント』を開催します。

詳しくは県民の日パンフレット、またはHPをご覧ください。  
(市役所、町役場などで配布)  
<http://www.pref.shizuoka.jp/kikaku/ki-110a/>

### 『県民の日おもてなしイベント』

**陣馬の滝まつりと猪之頭湧水群を歩く**  
鎌倉時代の注時を偲び、山間の集落へ

開催日: H22年8月22日(日)  
時 間: 9:00～12:00

問合せ: 富士宮市観光協会  
TEL 0544-27-5240 FAX 0544-26-0066



## まちなか夏まつり

8/7 樹神火まつり

燃える神輿を担ぐ勇壮なまつり

8/8 宮踊り

メインストリートでの老若男女6千人総おどり

8/6～8 七夕

マイロード本町七夕飾りていっばいに

## 田貫湖だより



第4回

**田貫湖へら鮎釣大会**

◆日 時 H22年8月29日(日)

◆場 所 田貫湖

◆定員になり次第締切

※詳細は(社)富士宮市観光協会へ  
tel.0544-27-5240 fax.0544-26-0066

## 『六根清浄』

「風薫る”村山古道”を歩く」の記に寄せて

二度に亘る私にとっての試登山は、コースタイム度外視で体力・気力・好奇心だけが頼りでした。精も魂も尽き果てて、一度目は西白塚から、二度目は五合目から軟弱にも文明の利器にすぎた下山となりました。

平成22年7月1日、富士山お山開きの当日、村山浅間神社で行われた開山神事の折、「畠堀操八氏」にお逢いしました。『富士山村山古道を歩く』(風濤社)の著者と知って驚き、奇しき因縁を感じました。

「2003年から3年位かかって踏査したのですがその後が気に掛けていました。偶然『いずみ』を拝見し、おおっと思いました。そうですか、あなたでしたか。次号が楽しみです……」。私の奮闘などゴマメの歯ぎしり、汗顔の至りでした。 K・H



# この人

山田庸章さん

JFP日本富士山写真家協会会員  
元祖「二重ダイヤモンド富士」写真家



「ダイヤモンド富士」撮影ブームの火付け役として知られる。会社員(星山在住)の山口庸彰(ツネアキ)さん。山口さんは佐賀県出身で県立武雄高校卒業後、横浜で写真専門学校に通いながら創作活動に励む。当初はポートレートなどモデル撮影が中心であったが、昭和55年富士山に魅せられ富士宮市に移住。当時はカメラ店経営の傍ら富士山写真を撮り続けてきた。今の富士山写真ブームの火付け役といっても過言ではない。

特に、田貫湖などで見られる「二重ダイヤモンド富士」を先駆的に題材に取り上げ、平成2年には、イメージ香港フォトグラファ国際大会、日本代表に作品が選ばれグランプリを獲得してい

る。また、全日本代表として香港をも訪れ、海外に富士山の写真を紹介した。

市役所には「二重ダイヤモンド富士」の写真が寄贈されている。

ここところ、しばらく作品作りを休んでいたが、昨年(2022年)の第13回「総合写真展」で優秀賞を獲得、再び富士山の写真の撮影を始めた。6月26日から30日まで市内のギャラリーで「感動の5日間」と題して作品展を催したばかりである。ますます期待される郷土の写真家の一人である。

H・S

## 山宮浅間神社 — 鎮座 1900年祭を迎えて —

遙かなる時を越えて、今...1900年祭が行われる。遠く祖先より山宮の守護神として崇められ、本殿を設けず遥拝所から富士山を仰ぐ、最も古い形の祭礼を今に伝える貴重な史跡ともなっている。

**日時** 平成22年9月19日 (日) 10:00~13:30  
**主催** 山宮浅間神社鎮座1900年祭実行委員会  
**お問合せ** 事務局 TEL 58-1318 赤池通昌

**場所** 富士宮市山宮741  
**協賛** 山宮区



山宮浅間神社は、鬱そうとした杉木立に囲まれ、榊の老樹と富士山の噴火の際の火山弾と思われる磐石(いわくら)、祭儀の目印となる敷石だけがひっそりと残された神域である。

ここは本来富士のお山を遥拝する場所であり本宮(浅間大社)の元宮としての聖地である。山宮浅間神社には本殿はなく、本殿の有るべき場所には石が並べられている。これらの石は建物の跡ではなく、祭紀の時に神官や社僧達が着座する位置を示したものだと考えられる。ここに社殿を建てようとしても必ず風に倒されてしまうと伝承されている。本宮に遷宮された後も元宮との間には「銚」による御神幸の行事(冬山の神として春里の神として行き来した)が行われていた。この地に漂う神気に引かれ参詣に訪れる人も多い。 K・W

## 水の日

みなさんは8月1日が「水の日」と言うことを知っていますか。昭和52年(1977年)から、国土庁の提唱で始められたものでこの日から1週間「水の週間」として、水資源を大切にすするPR運動が様々に繰り広げられます。どうして、この日が水の日と定められたかという、毎年この時期、渇水期の真っただ中で水不足に悩む地方が出てくる。この日は国民こぞって水の大切さを自覚し、水の有効な利用法と節水に心がけるよう呼びかけているのです。

お陰様で、我々の富士宮市は富士山の恵みを受け伏流水がいたるところから湧出している、あまり水の有難さは身にしみていないのかも知れませんが、この日を機会に富士宮市の水についても、もっともっと有効利用(観光も含め)を考えることが必要なのではないでしょうか。 H・S

